

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：田中 勤子 所属： 広島市立己斐上中学校 記録日：2020年2月11日

キーワード：学習支援 生活支援 自己効力感

【対象児の情報】

○学年 中学2年

○障害名 ASD

○障害と困難の内容

- 学習意欲が低く、興味のないことに向かうことが難しい。
- 忘れ物が多く、失敗経験を重ねてしまっている。
- 書くことに苦手意識を持つ。

【活動目的】

○当初のねらい

①学習面における自分の得意不得意に気づき、自分に合う学び方を体得しながら、意欲を持って学習に向かうことができる。

②生活面における困りを自分で解決していく手段を身につけ、成功体験を重ねることで自己効力感が高まり主体的に行動できるようになる。

○実施期間 2019年4月より2020年2月

○実施者 田中勤子 西川和子 鹿口亜美

○実施者と対象生徒の関係

田中 勤子（採択者本人 専任の特別支援教育コーディネーター）

西川 和子（担任 英語科）

鹿口 亜美（副担任）

【活動内容と対象児の変化】

○対象生徒の事前の状況

• 通常の学級に在籍

保護者は入学時に特別支援学級を見学し、通常の学級の在籍を決められた。

• 幼少期にアスペルガー症候群と診断される。

• 音声での指示の把握ができていないことが多い。周囲の生徒の動きを見て気づき、ワントンボ遅れながら活動を始めることがある。

• 処理速度も高くないため、文字を書く、黒板を写すのが苦手で、特に話を聞きながらメモをするなどは苦手である。書くことを嫌がり、ノートテイクしていないことがある。

• スクリーニングテスト（入学時、1年生全員に対して認知特性を確認するために実施）の結果からは、聴写の課題に誤答があり、視写の課題に時間がかかる様子が見られた。

• 小学校時の学習の積み上げができていない部分があり、学習への諦めが見られる。特に数学には苦手意識を持つ。授業中、内容の理解が難しいと感じたら、固まってしまっていることがある。

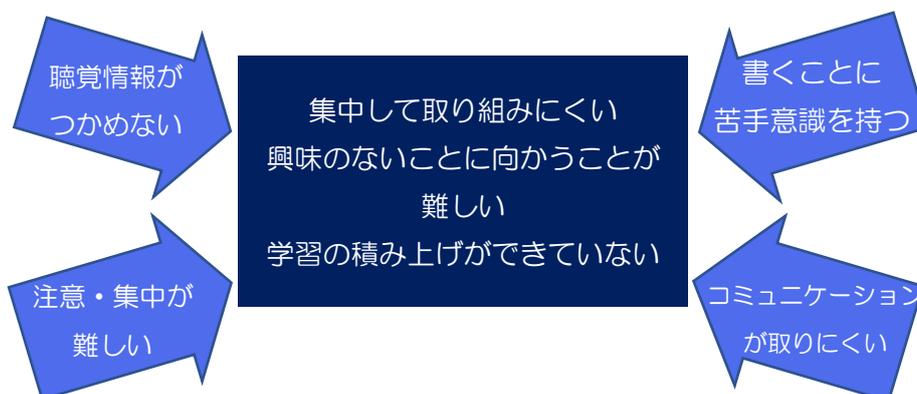
• 持ち物の管理やプリント類の整理が難しく、紛失していることがある。また、時間割や持参物、提出物などの情報を上手く家庭に持ち帰ることができない。

• 休憩時間は一緒に遊ぶ生徒はいるが、会話をして楽しんでいるというより、一緒に場を共有している様子が見られる。一人でボソボソと呟いていることはあるが、会話のキャッチボールは、苦手な様子である。

- ・思春期に入り、格好悪いところを見せたくない、友達からの評価を下げたくないという気持ちが強くなっている。
- ・小学校6年生の時、週に2・3回登校しぶりが見られた。
- ・定期テストの前には、何から手をつけていいのかわからなくなり、授業中、机の下にもぐり込んでしまうなど、不安定な状況が見られた。また、試験週間でも教科書や学習ワークなどを家に持って帰ることができず、テスト勉強に取りかかれなかったり、休日に保護者と一緒に学校に取りに来たりすることがあった。
- ・昨年度は、放課後、リソースルーム（個別指導教室）にて個別学習を行う時間を設定したが、学習に対する意欲の向上が見られなかったが、iPad を使ったゲーム的な学習に対しては抵抗なく取りかかれることが多かった。
- ・春休み、対象生徒と保護者に来校していただき、iPad の活用について話をしたところ、本人は、最初、「みんなと違うのは嫌だ」と躊躇したが、具体的な活用方法を紹介すると「頑張ってみる」と、前向きな発言があった。
- ・授業の様子

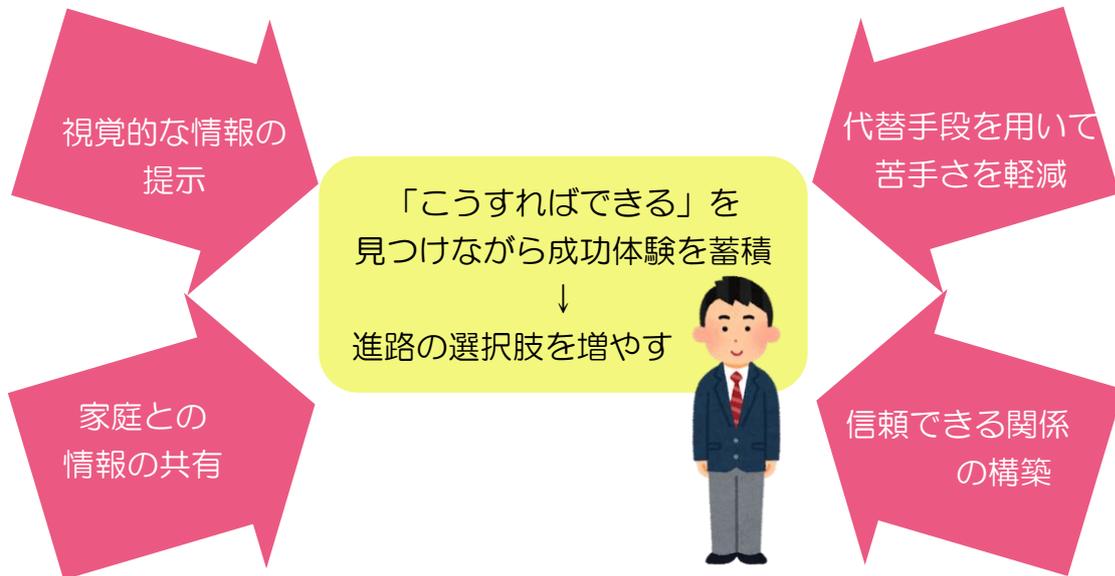
教科	様子
国語	一文読み ○ 長文の読解 × 書き 苦手意識あり
数学	四則計算 ○ 分数 △ 小数 △ 説明が長くなると、集中が逸れる 苦手意識が強く固まっていることも
理科	実験には参加
英語	アルファベットの読み書き ○ 単語のスペリングは覚えづらい
実技教科	生き生きと活動できる

- ・家庭では、朝の支度や学校から帰ってからの時間を自分で組み立てて行動することが難しく、母親の言葉かけが必要な場面が多い。
- ・友達との約束を忘れてしまうことがある、財布をどこに入れたかわからなくなることがある、家の鍵を持って出かけるのを忘れることがあるなどの失敗経験が多くある。



○活動の具体的内容

今年度の取り組みは、対象生徒の苦手な部分に対して、一つ一つ具体的な支援をしながら、苦手さを軽減していきたい。また、対象生徒が信頼できる人間関係を構築すること、大人とも周りの子どもたちともいい関係をつくり、彼対象生徒が安心して学習できる環境を作っていくこと。そして、家庭との連携を図りながら、うっかりした失敗経験を減らし、「こうすればできる」を見つけながら成功体験を蓄積していきたい。このような成功体験を積み重ね、もっとできる自分を感じさせ、将来の進路を前向きに切り拓いていこうとする意欲を持たせていきたいと考えた。



学習面について

書きの苦手さ	板書の写真を手元手本に キーボード入力	 
記憶	テスト勉強で暗記を助ける	  
学習の空白	「palstep」で家庭学習	
個別学習	興味に合わせて教材を用意	     

生活面について

コミュニケーション	自分の思いを話せるように 「ByTalk for school」でつながる 「SimpleMind」で気持ちを言語化	 
不注意	EchoSpot を対象生徒の家に設置 時間割 宿題の確認 リマインダー マイ定型アクション	

○対象生徒の事後の変化

書きの苦手さに対して

- ・板書を手元手本に

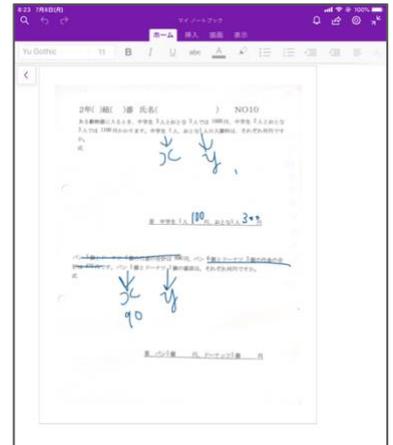
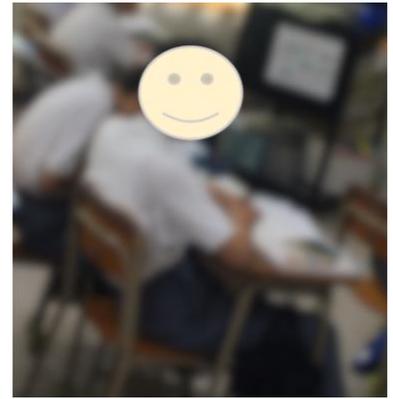
黒板を見ながら書くと時間がかかるため、段々書くことに苦手意識を持ってしまっている対象生徒であるが、iPad で写真を撮り、板書を手元に手本として置くことで、他の生徒と同じスピードで書くことができたことがわかった。この取り組みにより、書くことへ抵抗が少なくなり、板書を写そうとしている姿が見られるようになった。

- ・「OneNote」に情報を保存

書く量が多かったり、気持ちが向かわずノートテイクできていない時は、アシスタントの先生が iPad で板書の写真を撮り、「OneNote」に保存していくことにした。また、プリントをファイルし、まとめることができずに紛失してしまうことが多いため、配付されたプリントも写真に撮り保存した。

対象生徒は、ゲーム機でローマ字入力に慣れているので、「OneNote」にキーボード入力で大変なところを書き加えてはどうかと提案した。

授業中に iPad に書き込むことには抵抗感があり、活用は難しかったが、家に帰ってから、取り込んだプリントに書きこみながら学習している様子が見られた。(図1)



(図1)

個別学習では

- ・興味に合わせて教材を用意

対象生徒は教室で授業を受けるのがつらくなったら時、許可をもらってリソースルーム（個別指導教室）に移動し、クールダウンをしたり個別学習を行ったりしていた。対象生徒が取り組みやすい学習アプリを用意し、本人のペースで学習した。

アプリ「数学の王者」は、BGMのリズムが気に入ったようで、楽しみながらリズムに合わせてテンポよく回答していた。英語の学習は、「Bitsboard」のMemoryCardやWordBuilderが気に入って、集中して取り組むことができた。カードには音声も入れ、音声を聞きながら、単語を塊で捉えさせるようにした。

学習の空白に対して

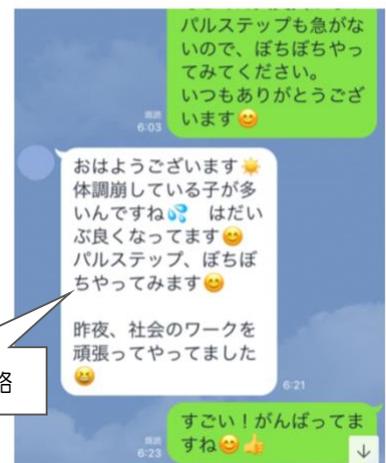
- ・「palstep」で家庭学習

対象生徒と保護者に「palstep」で小学校の時に習得できていない学習を家庭で少しずつ学習していこうと提案した。対象生徒も納得し、家庭で開いて見ている様子だったが、継続して取り組むことはできなかった。

その後、ICT教材「eboard」を紹介し、家庭で学習ワークをやってみて、わからないところは動画を見て理解しようと取り組んだ。



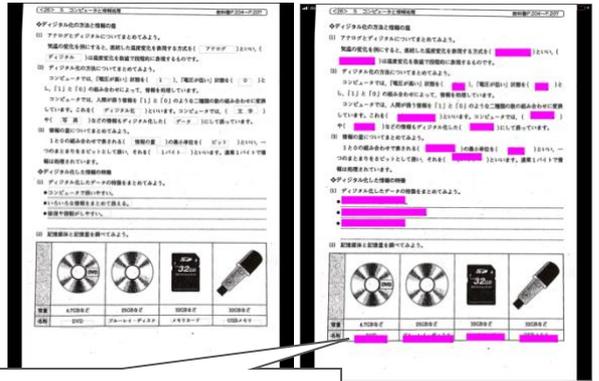
母親からの連絡



記憶を助けるために

- テスト勉強での暗記を助ける
定期テストの前には、対象生徒とテスト勉強に向けての作戦会議を開いた。

「書かずに覚える方法がいい」と本人が選択したので、「AC Flip」で試験範囲のプリントに付箋を貼ったり、「Bitsboard」等を活用し、テスト勉強に取り組んだ。



技術のテスト勉強のために「AC Flip」で加工

不注意さに対して

- EchoSpot の設置

EchoSpot を対象生徒の家に設置し、家に帰って、自分で時間割や持参物、宿題などを確認できるようにした。設定の為に家庭訪問に行った時に対象生徒から、「ホーム画面を見たら大事なことを思い出せるようにして!」とか、「家を出る時、鍵を持ったか?聞いてほしい」との要求があった。マイ定型アクションを利用して、「アレクサ、行ってきます」と話しかけると、「鍵は持ちましたか?」と、返してくれるように設定した。



また、家庭で時間を意識して行動できるように、担任や母親の端末のリマインダーから EchoSpot に情報を送り、EchoSpot が対象生徒に気づかせてくれるようにした。

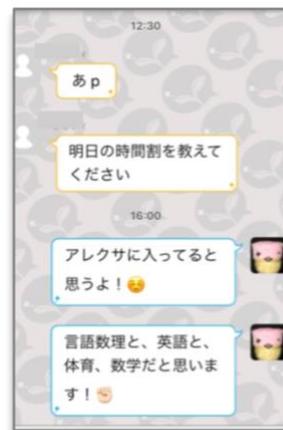
今まで、毎朝、起きてからぼーっとして座ったままで、母親の指示を待ちながら支度をしていた対象生徒であったが、アレクサからの知らせで自分から行動できるようになってきた。母親が「次は何をして!」という声をかけなくても、自分で支度ができるようになってきたとのことである。アレクサからのリマインドがなくても自分から動けることも増えてきたと、母親から報告をいただいた。

コミュニケーションのために

- 「ByTalk for school」でつながる

対象生徒の気持ちを支え、安心して自分の気持ちを伝えられる関係をつくるために、「By Talk for school」を試みた。

(図1) は初めて対象生徒が送ってきたメールである。時間割を教えてくださいと頼ることができる。(図2) は iPad 中の課題が増やされていることに気づいて、送ってきたメールである。怒った表情のスタンプを使いながらも、ピースサインで自分が頑張っていることをアピールしている。



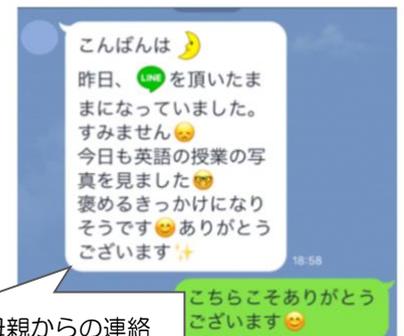
(図1) ←



(図2) ←

- 写真に撮って送り EchoSpot で家族と共有

対象生徒の頑張っているところを家庭で話題にもらい、対象生徒がその場面の様子を家族に話したり、褒めてもらったりすることをねらいとして学校で頑張っているところや生き生きしている表情を写真に撮り、EchoSpot に送った。今まで本人から伝えることができなかった学校の情報を、写真をきっかけに家族に話すことができ、また家族から褒められるきっかけとなり、家庭内での会話が増えてきたそうである。



母親からの連絡

・得意なことでもっとつながる



対象生徒がリソースルームを訪ねて来た時には、学習の後で、彼の「好きなこと」「得意なこと」に寄り添い一緒に過ごした。自分の記憶力に問題があると話す対象生徒は、アプリ「動体視力」で数字を瞬時に見とって覚えられることがとても嬉しかったようだった。また、絵を描くのが大好きな対象生徒にアプリ「Stop Motion Studio」を紹介し、本人がホワイトボードに描いた絵をコマ撮りして動画を作った。対象生徒は、時間を忘れて夢中で作り、リソースルームを訪れた他の生徒に動画を見せるなど、大変満足そうだった。また、他の生徒にアプリの使い方を教える姿も見られた。

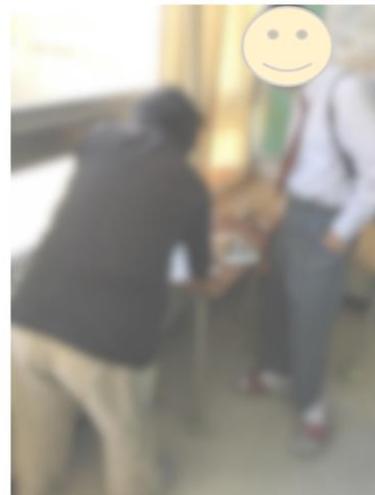
夏休みの宿題への支援

・夏休みの宿題をどうクリアするか相談

夏休み前に、担任と一緒に、夏休みの宿題の攻略法を相談した。書くことに抵抗がある課題については、「OneNote」に取り込み、書き込めるように準備した。

教科	課題	攻略法
国語	作文・標語	「OneNote」に入力
	二百字帳	漢字ノートで頑張る！
	対義語・類義語を覚える(プリント)	「Bitsboard」で暗記
社会	プリント	「OneNote」に入力
	レポート	「OneNote」に入力
数学	サマーワーク	サマーワークに手書き
理科	プリント	「GoodNotes」→「OneNote」
美術	日用品のスケッチ	スケッチブックに描く
家庭科	献立を考える(プリント)	「OneNote」に入力
英語	毎日ノート	「OneNote」に入力

夏休み中、順調に宿題を取り組み、夏休み明けには全ての宿題を提出することができた。



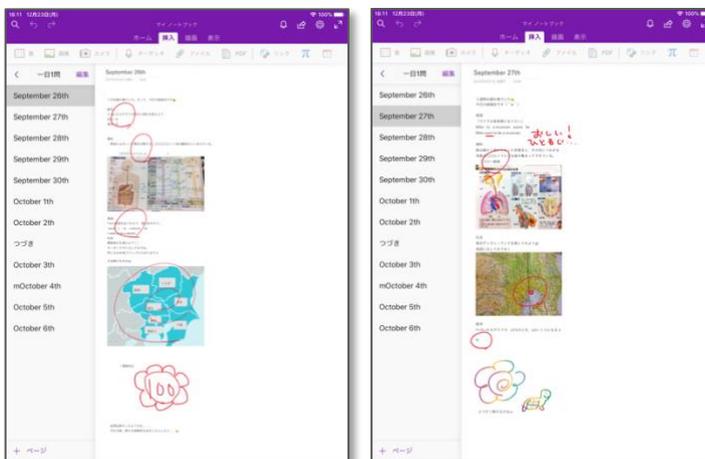
予習に取り組む

・「OneNote」に宿題を送る

次の日の授業の予習を「OneNote」で行った。次の日の授業内容を把握し、その中からポイントを絞って問題を作り、「OneNote」で共有し、対象生徒が取り組めるようにした。



すると、授業中、手を挙げて発表する姿が見られるようになり、「ぼくは予習してますから」と、理科の教員にアピールすることもあった。また、授業中、iPadを職員室に預けていたことを思い出し、その中の学習内容が見たくて、アシスタントの先生にiPadを取ってきて欲しいと頼む場面も見られた。



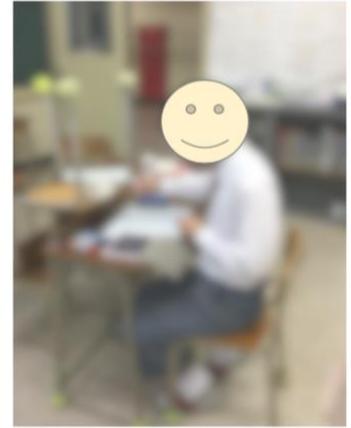
得意なことを活かして

・10月の文化祭では、対象生徒に各クラスの曲名を紹介するアニメーション動画の作成を依頼した。

アプリ「Stop Motion Studio」を使い、得意なイラストで楽しいアニメーションを作り、保護者や生徒に披露した。

校長先生から直々に依頼され、張り切って取り組んだ。

事後、対象生徒から「ぼく、テクノロジーには強いですから」という言葉を聞くことができた。



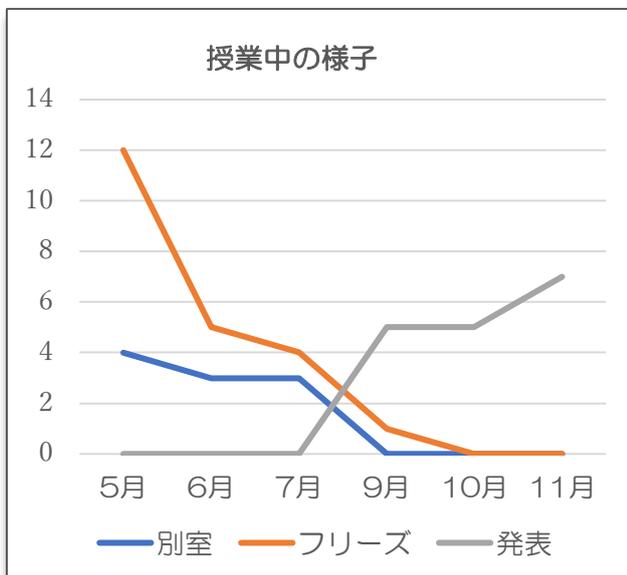
【報告者の気づきとエビデンス】

・学習意欲の向上が見られた

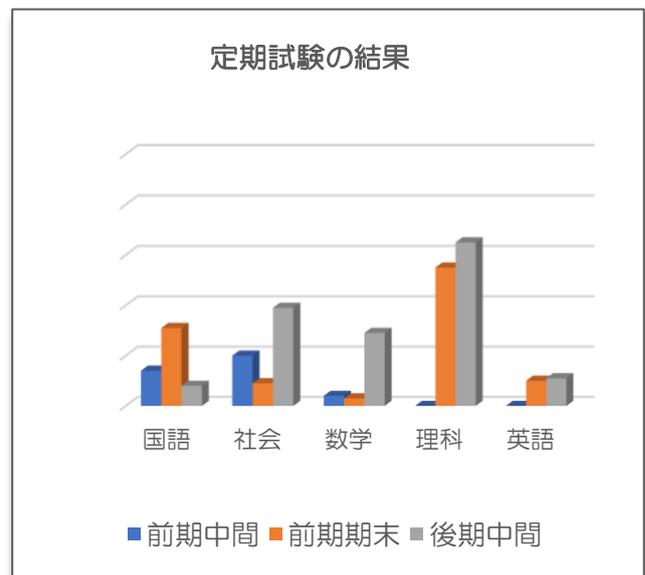
授業中教室にいるのが辛くて別室で過ごした回数、教室でフリーズしていた回数、逆に授業中手を挙げて発表した回数をグラフにしてみると、夏休みを境にして、学習に対するモチベーションが変わったことがわかる。

(図1)

そして、定期テストの点も図2のように変化した。特に理科の学習には、夏休み明けから意欲的に取り組み、前期期末テストでは5割以上を取り、自分の行動に自信と達成感を感じることができたと思われる。そしてその自信が後期中間テストにつながり、今まで「やらされる」と感じていた学習に自分の意思で向かっていくことができたと思われる。「答案用紙からは、対象生徒が何とか一問でも多く問題を解こうとしている様子が伝わってくる」と、教科担の先生から評価された。



(図1)



(図2)

・クラスの中で、自信を持った言動が増えた

それまでは、場を共有していても、会話のキャッチボールをしている様子が見られなかった対象生徒であったが、夏休み明けからは、振り返って後ろの席の生徒に自分から話しかける場面も見られた。

また、後期の班替えでは、初めて班長に立候補し、班のメンバーに自分から声をかけ、班の意見をまとめようとしたり、おしゃべりの止まらない生徒に「集中できないから静かにしてください」と声をかけることもあった。

今まで、周囲の生徒とのコミュニケーションが苦手とされていた対象生徒だったが、夏休み明けから、自分から積極的に関わりを求めていく姿が見られるようになった。夏休みの課題を全て提出し自己効力感が高まったことが、その後の対象生徒の自信を持った言動につながったと考える。



・自分に合う方法を知ることができた

「自分は覚えるのが苦手」と話すようになり、「提出物の情報を EchoSpot に送ってほしい」と担任にお願いすることがあった。また、「個別学習の方がよくわかるんです」と、放課後の個別学習を希望したり、iPad のアプリで重要語句を覚えたり、「このやり方が自分に合うのではないかと考えながら、学習しやすい方法、失敗しない生活上での手段を少しずつ手に入れることができていると考える。特に、覚えておきたい情報を iPad の中にまとめておくことや EchoSpot で教室と家庭で情報を共有することが、対象生徒の困りを軽減し、「これを使ってなんとかなった」という経験の蓄積になったと考える。

・将来の自分について前向きに考え始めた

対象生徒は、夏休みの宿題の作文に「なりたい大人」という題を選び、「やさしくてよくはたらく大人になりたい」と書いた。

今まで、物事を腕力で解決しようとしてきた対象生徒の価値観がこれまでの取組で変化し、将来の自分の生活を、自分の内面を見つめ、真剣に考えようとしている様子が作文から伺われる。

「理由はやさしい人と仲が良くなるからです。仲がよくなるといういろんなことにたすけてくれたり話しをしてくれて、いいことがいっぱいあるからです。」と綴っており、「なりたい大人像」に変化が見られた。

これまで、中学卒業後は就職をイメージしていたのか、「自分でもできる仕事はなんだろう」「力持ちだったらできる仕事は何？」という発言をしていたが、2月、進路学習の後、家庭に帰り「〇〇高校どうかね？」と、具体的に高校の名前を口にした。自分の進路として進学も視野に入れて考え始めた様子である。進路の選択肢を増やすことができたのではないかと考える。

